じょーもぴあ宮畑だより

2018 春号 vol. 25

特　集　：平成 30 年度の事業計画……Ｐ２
連　載　：展示案内　⑨……Ｐ３
：コラム　縄文の小径　第５回……Ｐ３
：福島市の遺跡　第２２回……Ｐ４

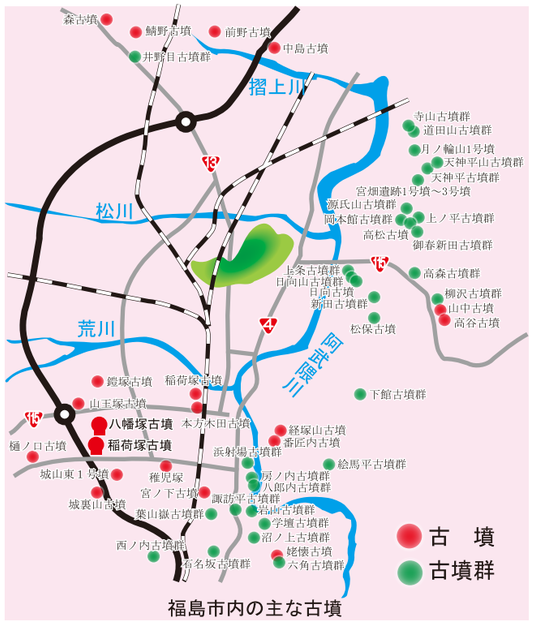
編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班　　発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人

福島市の遺跡 古墳時代編

第22回　稲荷塚古墳・八幡塚古墳（福島市下鳥渡）

福島盆地では、4 世紀に位置づけられる前期古墳はまだ見つかっていません。福島盆地で最も古いと考えられる中期古墳の一つが国見町にある塚野目古墳群の八幡塚古墳です。また、伊達市保原町の大泉古墳群（伊達市保原町）も中期古墳ですが、古墳時代前期の方形周溝墓も一緒に見つかっています。

福島市内では稲荷塚古墳・八幡塚古墳（下鳥渡）がそれに続くものと考えられます。稲荷塚古墳は全長約 58m で、墳丘の一部が四角く飛び出している帆立貝式古墳と考えられます。付近の水田からは５世紀後半に位置づけられる、須恵器（朝鮮半島から伝わった、窯で焼かれた青みがかった固焼きの器）が見つかっており、稲荷塚古墳も同じく 5 世紀後半の中期古墳であると考えられます。



福島市内の主な古墳

八幡塚古墳は稲荷塚古墳の北方約 350mに位置し、全長 45.5mの、やはり帆立貝式古墳であると考えられます。また、八幡塚古墳では墳丘から市内で唯一の埴輪片が見つかっています。出土した埴輪は単純な筒状の円筒埴輪や縁の部分が大きく開く朝顔形埴輪などがありますが、人の腕のような形をした形象埴輪の破片も見つかっています。八幡塚古墳は、出土した埴輪などから稲荷塚古墳よりもやや新しい５世紀の終わりごろに造られた古墳であると考えられます。やがて、６世紀～７世紀には岡部から黒岩・伏拝の、特にに阿武隈川東側の山沿いを中心に、小規模な古墳が密集する群集墳が盛んに造られるようになります。

稲荷塚古墳（上鳥渡）

◎フィールドワーク　戊辰150周年記念　明治維新と福島市の教育の原点を訪ねて

◆日　　時　　７月１日（日）　午前９時 30 分～午後３時
◆集合場所　　まちなか広場集合
◆定　　員　　２０名（申込者多数の場合抽選）
◆講　　師　　じょーもぴあ・遺跡の案内人会長　紺野義行さん
◆参 加 費　　４００円
◆持 ち 物　　昼食、水筒、雨具、歩きやすい服装
◆申し込み方法　６月１８日（月）（必着）までに、往復はがきの往信裏面に
❶住所❷氏名❸生年月日❹電話番号を、返信表面に❶住所❷氏名を明記の上、
じょーもぴあ宮畑まで郵送で（１人につき１枚）　※受付開始　６月１日（木）

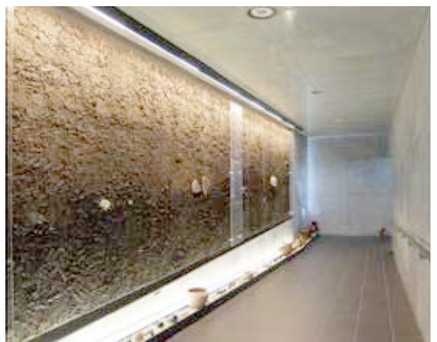
申し込み、問い合わせ　じょーもぴあ宮畑　960-8201　福島県福島市岡島字宮田７８
電話 024-573-0015　ＦＡＸ024-573-0016

編集後記

三島町荒屋敷遺跡の出土品が国の重要文化財に指定されたと新聞に載りました。植物性の製品は腐って残りにくいと言われていますが、荒屋敷遺跡では漆塗りの木製容器、編布や糸玉、竹を編んだ籠などが泥炭地に埋もれ良好な状態で出土し、作りかけの物もあるそうです。

奥会津の小さな町では高齢者の技術に注目し、木工や編み組細工など伝統工芸品に力を入れています。今に活きる「もの作り」の技は、只見川流域に生活した縄文人の知恵が受け継がれてきているのだと改めて思いました。タイムマシンがあったら、その時代の暮らしの様子を覗いてみたい…そんな思いに駆られます（紀子）

じょーもぴあ宮畑の体験学習施設は建築界でも評価が高く、平成 30 年 1 月には第 34 回福島県建築文化賞準賞をいただきました。特に特徴的な天井構造を持つエントランスホールを中心に、正面玄関から館内へのアプローチや縄文工房など、そのデザインは海外でも日本を代表する現代建築の一つとして高く評価されており、一見の価値があります。



平成 30 年度のじょーもぴあ宮畑事業計画

平成３０年度のじょーもぴあ宮畑は縄文時代を肌で感じられるような事業を計画しています。その一つが夏休みに実施する「さわれるミュージアム」です。縄文土器片や縄文時代に関連する様々な資料を、実際にさわれるような工夫をして展示します。また、石器体験や本格アンギン編みなど、今まで以上に縄文時代が身近に感じられる企画を準備しています。ぜひ、おいでください！

5月　デコレーションボックス作り・春まつり
6月　宮畑講座・かんたん絞り染め・縄文人体験会・勾玉バイキング
7月　フィールドワーク・石器を使ってみよう・本格アンギン編み・縄文人体験会
8月　夏休み縄文工作大作戦・さわれるミュージアム・縄文土器作り
9月　縄文ポシェット作り・うさぎの土笛づくり・秋まつり
10月　ナイトカフェ in 宮畑・縄文人体験会・カボチャのランタンづくり
宮畑講座・フィールドワーク
11月　フリーマーケット・縄文人体験会
本格アンギン編み・縄文リース作り
12月　キャンドルシェード作り・消しゴムハンコ
1月　凧揚げ・縄文にＴＲＹ・鬼のお面づくり
2月　宮畑講座・ワークショップ・石器を使ってみよう・土偶でひな人形
3月　本格アンギン編み・フィールドワーク

土偶づくり

縄文土器づくり

アンギン編み

イベント・縄文体験・もの作り・公開講座・フィールドワーク

※事業は現時点での計画です。各事業あるいは各月の実施予定については
市政だより、月刊予定チラシ、ホームページなどでご確認ください。

平成 30 年度のじょーもぴあ・遺跡の案内人の活動

平成３０年度のじょーもぴあ・遺跡の案内人は５５名の体制で、じょーもぴあ宮畑の案内ガイド、体験サポートに臨みます。また、自主事業として、昨年・一昨平成２８～２９年度に引き続き「県都ふくしま人のためのやさしい地元学」と題して３回のオープンカレッジ（公開講座）、３回のフィールドワークを主催します。

今年度のオープンカレッジは外部講師をお招きして、縄文時代を中心に最先端の研究成果をわかりやすく解説する内容を予定しています。フィールドワークも３回を予定していますが、第１回は戊辰１５０周年を記念して、福島市街地の明治維新の足跡を「近代教育の出発点」としてめぐる予定です。普段見慣れた街並みも、新しい視点で新鮮に映ることと思います。

フィールドワークの様子（信夫山の史跡めぐり　2018. 3. 25）

展示案内　⑨

展示室「縄文時代の人と地域のつながり」の後半は、「複式炉」にかかわる展示です。複式炉は縄文時代中期（大木９～１０式期）の東北地方南部を中心に流行した炉で、土器と石を組み合わせて作られています。　東日本に広範囲に分布している複式炉ですが、その中心は福島・宮城・山形であり、大木式土器と呼ばれる形式の土器が使われる範囲と重なる部分が多く、同じ土器を持つ地域は住居構造やまつりの風習を共有したり、人と人のつながりが強かった地域と考えられます。その一方で、大木式土器の分布範囲の周辺地域では、様相の異なる複式炉が見つかっており、地域差があることもわかっています。

福島市内では宮畑遺跡を始め、和台遺跡（飯野町）、月崎Ａ遺跡（飯坂町）、宇輪台遺跡（松川町水原）、愛宕原遺跡（荒井）など、たくさんの遺跡から複式炉が見つかっています。

このコーナーで展示されている縄文土器がどこか似通っているのは、文化を共有していたからなんですね。

連載コラム　縄文の小径

第五回　土器が時代を決める不思議～1万2500年を土器で時代区分～

縄文時代の区分と縄文土器

我々が歴史とよぶ２０００年の向こうには縄文時代がある。縄文時代とは今からおおよそ１５０００年前から２０００年前まで日本列島に縄文人が住んでいた時代の呼称である。縄文時代の時代区分は、土器形式上の区分から、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の６期に分けられる。研究当初は、前・中・後の三期区分だったが、資料の増加や研究の進展によって早期・晩期が加わり、最後に草創期が加えられた。そうした土器研究上の経緯を反映した時期区分であるため、中期が縄文時代の中頃というわけではない。縄文時代の開始となる１５０００年前から、草創期と早期だけでおよそ1万年間となり全体の三分の二以上となる。これは、一般的な時代の分け方と異なり異常である。中期といっても、一般的な中ほどの『中』を意味しているのではない。

この区分を決めているのがなんと土器である。縄文人が土器を作ったのか、土器を作ったから縄文人と呼ばれたのか。とにかく、縄文時代は土器の出現とともに始まる。

縄文土器の年代

最初の土器はいつ、どこでつくられたのか。かつては、考古学者Ｇ．チャイルドに代表されるように、メソポタミアで始まりそこから世界各地に拡散した、とされた。ところが、１９６０年代に縄文時代早期の史跡夏島貝塚から８０００年以上前という、それまでの倍近く古いＣ14年代（放射性炭素年代測定）による土器がでて、縄文年代区分は大きく揺らいでしまった。現在は１５０００年以前に最初の土器がつくられたというのが定説になっている。

この時代区分は、縄文時代の見方を大きく変えていった。当然のことながら、この時代区分は相対的時代区分であり、絶対的年代を示すものではない。しかし、この時代区分の設定により、また、その後の考古学の著しい発展により、縄文時代は少しずつ歴史の分野で語られるようになってきた。相対的年代が絶対的年代に近づくことにより、縄文時代は歴史として検索が可能になってきた。

なぜ、時代を土器の形式によって分類するのか。通常時代区分は、新しい国の成立や権力の移行、時代を画する出来事によって区分される。特に権力の移行に伴う社会や文化の大きな変化に求める。

山内清男と土器編年

しかし、縄文時代はそのような権力の移行やエポックメーキング的な事件は知りえない。何しろ、縄文時代を知ることが出来るのは、土の中から発見される土器や土偶、石器などの遺物だけである。ところが、この何の変哲もないような土器に光を当てた人がいる。当時東北大学に在席していた山内清男である。彼は多くの遺跡調査を行い、出土する遺物のなかでとりわけ出土量が豊富な土器に注目し、土器の特徴・広がりをもって縄文時代を区分することが最適であるとの視点から縄文土器型式編年の作業を始めた。ただ、土器には年代の表示がないので、絶対年代による時の流れは特定出来ないので、縄文文化の相対的な時代区分の指標をつくっていった。

具体的には、縄文式土器の型式学的変化に着目した相対編年を基準にして、草創期から晩期に至る６期に区分したのである。

縄文時代の時期区分

1. 草創期（15,000 年前～ 11,000 年前）
縄文時代の黎明期
※隆起線文土器、爪型文土器等
2. 早　期（11,000 年前～ 7,000 年前）
縄文時代の成立期
3. 前　期（7,000 年前～ 5,000 年前）
縄文時代の発展期
4. 中　期（5,000 年前～ 4,000 年前）
縄文時代の爛熟期
5. 後　期（4,000 年前～ 3,000 年前）
縄文時代の転機
6. 晩　期（3,000 年前～ 2,500 年前）
縄文文化から弥生文化へ

相対的年代を特定するためには、精緻な発掘調査において、検出遺構の前後関係を正確に捉えなければならない。次に前後関係が明確になった各遺構から、出土した土器の相対的な秩序を確立する。各時代の規制・要請を色濃く反映した土器群型式の変遷により、相対的土器編年を作り上げる。

さらに、実年代根拠を示した年代を与え、絶対的土器編年（実年代土器編年）を確立しなければならない。実年代を示すことにより、歴史を検索することができるのである。

（遊行子）